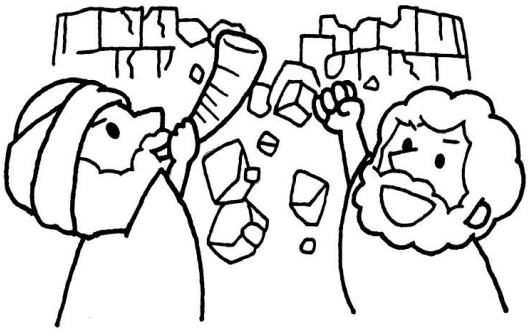


聖書　ヨシュア 6・1～20

テーマ　神の方法による勝利

暗唱聖句　そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができる。　ヨシュア 6・5

目標　人間的な方法でなく、神の方法によって勝利を得る。

10 月 7 日（日）

聖書　ヨシュア 6・5

聖句　そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができる。　5節

イスラエルの人たちが、大きくて頑丈なエリコの町の壁を崩すためにしたことはなんでしょう？ただ、神様の言うとおり、壁の周りを毎日回っただけでした！

わたしたちは、難しい問題が起きると、なんとか自分で解決しなきゃ！と考えてしまいます。目で見えるものだけを信じようとします。

でも、もし、わたしたちが神様を信じるなら、まずは神様がどう言っているかを知り、神様に従うことが大切なのです！それが一番の勝利の近道なんです！

祈り　天のお父様、一番の勝利の近道であるあなたに聞いて従います。

10 月 8 日（月）

聖書　ヨシュア 6・2

聖句　見よ、わたしはエリコと、その王および大勇士を、あなたの手にわたしている。　2節

イスラエルの人たちがどうやっても倒せないと思う敵の町。だけど神様は「あなた達はもう勝っているよ！」と言われました。戦ってもいないのに？そうです！

神様は、神様を信じる人にはどんな問題や悪魔にも勝てる力をくださるお方です。そして、あなたの先頭に立って悪魔と戦ってくださるお方です！なんでもできる神様が「もう勝ったよ！」と約束してくれるなら、どんなことにも勇気をもって立ち向かえるよね！

祈り　天のお父様、どんなこともにも勝てるあなたの力を信じます。

10 月 9 日（火）

聖書　ヨシュア 6・2

聖句　見よ、わたしはエリコと、その王および大勇士を、あなたの手にわたしている。　2節

昨日のお話の続き！あなたは、ご飯を食べる前、学校に行く前、勉強する前、お友達と遊ぶ前、何か大切なことをする前に、お祈りしますか？

ヨシュアは、エリコの町を倒しに行く前、神様のお言葉を静かに聞きましたよ。そして、心に安心をもらって、今からどうすればよいか、一つ一つ教えてもらったのでした。

わたしたちも、聖書の中、お祈りの中から神様の声を聞こうとするなら、神様は必ずあなたに応え、安心と知恵と力をくださることを忘れないでね！

祈り　天のお父様、何よりもまず、お祈りしてあなたのおことばを聞けますように。

10月10日（水）

聖書 ヨシュア6・3〜5

聖句 六日の間そのようにしなければならない。 3節

「神様にお祈りしたのにすぐに答えてくれない！もうお祈りなんてやーめた！」なんて言っている人はいませんか？

神様は、あなたが神様を本当に信じて待っているか、そのお祈りが心からのものか、あなたを見ておられますよ。イスラエルの人たちも、神様に「待つこと」、「神様を信じて従うこと」を教えてもらったの。

一番良い時に、一番良い答えを用意して「神様ってすばらしい！」「ナイスタイミング！」と言わせてくれる、それが神様なのです。

神様がわたしたちに用意してくださる不思議なご計画と時とを信じて待てる、そんなあなたでいてくださいね！

祈り 天のお父様、あなたの「時」があることを信じて待ちます。

10月11日（木）

聖書 ヨシュア6・11〜14

聖句 こうして主の箱を持って、町を巡らせ、その周囲を一度回らせた。11節

神様を信じている人たちがすることを、信じていない人が見ると、どんな風に見えるでしょう？賛美したり、お祈りしたり、聖書を読んだり、何の意味があるの？って思われることがたくさん！でもね、それがどんな風に思われても、神様を知っている人たちには、とっても意味のあることなのです！そして、神様を信じている人たちのすることは、信じていない人たちや悪魔を「あっ」と言わせる不思議な力を生むのです！

そう、あなたのする全てのことに意味を持たせてくださる、それが神様のすばらしさなの！

祈り 天のお父様、神様を信じてするすべてのことがまわりの人や悪魔に「あっ」と言わせる力になりますように！

10月12日（金）

聖書 ヨシュア6・17〜18

聖句 あなたがたは、奉納物に手を触れてはならない。 18節

あなたは、神様が喜ばれないこと、お嫌いになることが何かわかりますか？神様を信じているのに、神様が喜ばれないことをしていませんか？

エリコの町は、本当の神様に従わない、偶像のたくさんいる町でした。沢山の罪があるこの町を滅ぼすと神様がお決めになったので、その町にあるものは一つも自分のものにしてはいけません、と聖書は言っています。

あなたも、神様に従うなら、神様が喜ばないこと、罪だとわかっていることをしてはいけない！あなたもエリコのように滅びないために！という教えです。

祈り 天のお父様、あなたが喜ばないことや罪だと思うことから離れて生きていきます。

10月13日（土）

聖書 ヨシュア6・19〜20

聖句 民はラッパの音を聞くと同時に、みな大声をあげて呼ばわったので、石がきはくずれ落ちた。 20節

武器もあまりなく、戦うための訓練もそんなにしていなかったイスラエルがどうしてエリコに勝てたのでしょう？それは、ただ神様が一緒にいて力をくれたから！神様から離れたらイスラエルは勝てなかったの。神様ってすごい！

あなたも同じ！あんまり自信がなくて、強くなくても、ただ神様が一緒にいてくださり、あなたが神様のみ言葉に従っているなら、どこで何をしていても恐がらずに進んでいけるの！そして、神様に守られて、悪魔にも勝てる神様の子どもでいられるんだよ！神様に感謝しよう！

祈り 天のお父様、わたしを守り、助け、勝たせてくださるあなたに感謝して毎日を過ごします。



聖書　士師6・7～16

テーマ　勇士として立つ

暗唱聖句　大勇士よ、主はあなたと共におられます。　士師6・12

目標　どんな人をも働きに用いようとしてくださる神の招きにお応えする。

10月14日（日）

聖書　士師6・12

聖句　大勇士よ、主はあなたと共におられます。　12節

イスラエルの人たちは神様に従わず、悪いことをしたので7年の間、ミデアンびとに苦しめられていました。食べ物や家畜、居場所もなくなり、どうにかしたいけれどどうにもできない！こんな時にあなたならどうしますか？

今も、神様を信じず、従わない人は沢山います。その中には苦しい思いをして「神様助けて！」と心で叫んでいる人も沢山いるのです。あなたには何もできないと思いますか？いいえ、神様は「大勇士よ」とあなたを呼び、選び、あなたにしかできないお仕事をくださるんですよ。

祈り　天のお父様、この世界の中で、あなたを信じるわたしたちを「大勇士」にしてくださりありがとうございます。

10月15日（月）

聖書　士師6・7～10

聖句　しかし、あなたがたはわたしの言葉に従わなかった。　10節

イスラエルの人が奴隷の時、エジプトから救い出してくれた神様！だから神様を信じ、従うのが当たり前だね！でも、イスラエルは「わたしのほかになにものをも神としてはならない」という神様の命令を忘れ、本当の神様でなく、他の国の偶像を恐れて拝んでいました。そして、苦しくて仕方なくなった時にようやく「神様！」と叫んだのです。神様はどんな罪深い人の叫びや祈りでも聞いて下さいます。でも何かあってからではなく、まず最初に神様に祈り、神様を信じ続ける皆さんでいてくださいね！

祈り　天のお父様、困った時だけでなく、どんな時でもあなたを信じて祈っていきます。

10月16日（火）

聖書　士師6・11

聖句　ギデオンはミデアンびとの目を避けるために酒ぶねの中で麦を打っていた。　11節

神様は、イスラエルをミデアンびとから助けるために、ギデオンを選びました。神様のお仕事をするんだから立派な人？すごく強い人？いえ、ギデオンは神様のために働く準備をしていなかったし、ただの農民で、ぶどう酒をつくるための穴に隠れて小麦を打っていたのだから、弱いところもあるし、普通の人でした。

わたしたちも、毎日普通に生きているし、恐いことがあれば逃げることもあるでしょう？でもね、神様があなたを選んだ瞬間、あなたが神様のみ言葉に従うその瞬間、あなたは勇士！神様の力があれば恐れなくていいんです！

祈り　天のお父様、普通のわたしもあなたの勇士であることをありがとうございます。

10月17日（水）

聖書 士師6・13

聖句 主がわたしたちと共におられるならば、どうしてこれらの事がわたしたちに臨んだのでしょう。　13節

悪いことが起きた時に、人間は「神様がいるならこんなことはしないはずだ！」と怒ります。でも、よくよく考えてみたら本当は人間にこそ原因があると気づくはず！ギデオンも、イスラエルがミデアンびとに苦しめられた原因は、神様に罪を犯したからだということがまだわかっていませんでした。そして、ギデオンは神様に「どうしてですか？」と真剣に聞いたの。

こういう時、本気でお祈りして神様に近づける人は、神様から答えをもらえるだけでなく、神様に用いられやすい人に造り変えられるんですよ。

祈り 天のお父様、悪いことがあった時、人間やわたしにも罪がなかったか、心からお祈りし、み言葉を聞く子どもにしてください。

10月18日（木）

聖書 士師6・14

聖句 あなたはこのあなたの力をもって行って、ミデアンびとの手からイスラエルを救い出しなさい。　14節

神様はギデオンに、「100人分、1000人分の力を出しなさい！」って言ったんじゃないの。「あなたは、あなたの今持っている力があればいいんだよ」と言ったの。足りない分は神様が力を足してくれるから大丈夫だね！

そして、神様はあなたにも「あなたはあなたのそのままで大丈夫！わたしがあなたと一緒にいるから！わたしがあなたを用いたいから！」と言われます。あなたが、どんなに小さな力でも神様のために捧げるなら、神様は喜んであなたのすることを何倍にも祝福してくださるんですよ。

祈り 天のお父様、わたしは弱く、小さな力しかありませんが、あなたのためにお捧げします。どうかわたしを祝福してお使いください。

10月19日（金）

聖書 士師6・15

聖句 わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです。15節

「勇気があるとは、恐れないことではなく、恐れに勝つことだ」と聞いたことがあります。ギデオンは神様に選ばれた時、素直に従えませんでした。周りの人と自分を比べて、自分の弱さだけを思っていました。恐れていたのです。

神様に選ばれている皆さんは、神様に「はい」と言って従っていますか？周りの人と自分を比べて「自分はだめ！」と恐れていませんか？一歩前に踏み出す力をくださり、恐れに勝たせてくださるのは神様ですよ！弱い自分ばかり見つめないで！あなたは神様のものです！

祈り 天のお父様、人と自分を比べてくよくよせずにあなただけを信じて生きます。わたしはあなたのものです！

10月20日（土）

聖書 ピリピ4・13

聖句 わたしを強くして下さる方によって、何事でもすることができる。　13節

ギデオンのずーっと後の時代。イエス様のことを伝えたパウロは、捕まり、鞭で打たれ、牢屋の中、すごく苦しいのに「どんな苦しみも乗り越えられる！」って言ったの。パウロの心の中には、あの、十字架で人の罪を背負われたイエス様、だけど、悪魔にも死にも勝った本当の勇士イエス様がいたんだね！あなたの心の中にも、イエス様がいてくれるなら、パウロのような信仰の勇士になって、辛いこと、苦しいことも乗り越えられるし、悪魔や死にも勝つことができるよ！

祈り 天のお父様、イエス様をありがとうございます。わたしは信仰の勇士です。イエス様によって悪魔や死にも勝ちます！



聖書　士師16・4～6、15～22

テーマ　聖別による力

暗唱聖句　わたしは生れた時から神にささげられたナジルびとだからです。　士師16・17

目標　罪から聖別されて、力強い信仰者生涯を送る。

10月21日（日）

聖書　士師16・17

聖句　わたしは生れた時から神にささげられたナジルびとだからです。17節

イスラエルを苦しめるペリシテに、怪力パワーで立ち向かったサムソンのお話！怪力の秘密はね、サムソンの髪の毛！えっなんで？

「ナジル人」はね、神様のためだけに働くように特別に捧げられた人のこと。心も体も丸ごと神様のもの！その印に、髪を切らず、お酒も飲まず、死体も触らないって。特にサムソンは髪の毛に神様の大きな力をもらっていたの。

それは、神様のために力のいるお仕事をするためなんだけど、サムソンは失敗したみたい！あなたは神様からもらった力や能力をどう使いますか？使い方、間違っていませんか？

祈り　天のお父様、あなたからもらった力や能力を正しく使えますように。

10月22日（月）

聖書　士師16・4

聖句　サムソンはソレクの谷にいるデリラという女を愛した。　4節

ある時、サムソンはデリラを好きになりました。どんな人か全然知らず、後でサムソンを危険な目に遭わせる人とも知らなかったの。

あなたには、好きな人や物事があるかな？

「好き」という気持ちはだれにでも起きます。でも、その気持ちは、人の心を正しく考えられなくしてしまうことがあるの。どんなに好きな人や物事でも、神様ならどう思われ、教えておられるかをいつも心に留め、あなたを見ている神様の目を一番気にしていないと、あなたもやがてサムソンのように失敗してしまうのです。

祈り　天のお父様、どんな好きな人や物事があってもあなたの目を一番気にしていけますように。あなたに従えますように。

10月23日（火）

聖書　士師16・5～6

聖句　われわれはおのおの銀千百枚ずつをあなたにさしあげましょう。5節

怪力サムソンを殺そうと考えるペリシテびとは沢山！そこでペリシテびとは、デリラにサムソンの力の秘密を調べるように言いました。でも普通、恋人の秘密を簡単にバラしちゃう？

ところが、デリラはお金の誘惑にはとっても弱かったの。お金があれば簡単にサムソンを捨てられるし、お金のためなら必死になってサムソンの力の秘密を聞きだす人でした。

悪魔は、あなたがどんな誘惑に弱いかよく知っていて、神様に従えなくするのが得意です。

あなたは、悪魔の誘惑に負けて神様が悲しむことをしていませんか？神様の喜ばれる道を歩いていますか？

祈り　天のお父様、誘惑に負けてデリラのような罪を犯さないようお守りください。

10月24日（水）

聖書 士師16・15～17

聖句 女は毎日その言葉をもって彼に迫り促したので、彼の魂は死ぬばかりに苦しんだ。 16節

サムソンにとって、髪の毛を失うことは、神様のナジル人でいるという約束を捨てること！だから、髪の毛の秘密を話すのは、神様に従って生きることをやめるのと同じことなのです。ところが、それがわかっていながら、デリラが大好きだったから、秘密を話してしまおうかと、悩んだというのです。

罪の世界も同じ。とても魅力的で、誘惑が上手で、説得力があって、しつこいの！罪の世界に従う方が神様に従う世界よりも大切なんじゃないかと思わせるのです。けれども、神様に従う人は決してそれに負けてはいけないのです！

祈り 天のお父様、どんなに罪の世界の誘惑が魅力的でしつこくても負けません！あなたに従うことをやめません！

10月25日（木）

聖書 士師16・17～19

聖句 その力は彼を去っていた。19節

とうとうサムソンはデリラの誘惑に負け、自分の力の秘密を話してしまいました。デリラはサムソンが寝ている間にペリシテびとを呼んだので、彼らはサムソンの髪の毛を剃り落しました。その瞬間、怪力は去っていったのです。「その力」とは、「神様の力」でした。

心のどこかで、その力のことを自由に使っていいと思ったり、誰も見ていないから少しくらいは悪いことに使っても平気だと思っていたのかもしれません。

あなたはどうですか？あなたの命や、あなたの力は、自分のもの、自分が好きに使っていいものだと思っていませんか？それは神様がくださったものですよ。

祈り 天のお父様、自分の命や自分の力はあなたがくださったものであることを感謝します。

10月26日（金）

聖書 士師16・20～21

聖句 彼は主が自分を去られたことを知らなかった。 20節

神様のナジル人である約束のしるし、髪の毛がなくなった時、いつも一緒にいて力をくれた神様も、知らない間に離れてしまいました。サムソンは普通の人みたいになったのでペリシテびとに捕まり、ひどい目に遭いました。

その後やっと、何のためにナジル人にされたのか思いだし、反省したでしょうね。

いくら神様を信じていると口では言っていても、自分を偉いと思って自慢する心、平気で罪を犯す心があるなら、神様はその人と一緒にいることはできません。神様が一緒にいられるのは、罪を悔い改めた心、へりくだった心を持った人だということを忘れないでくださいね。

祈り 天のお父様、いつも悔い改めた心、へりくだりの心をもって過ごせますように。

10月27日（土）

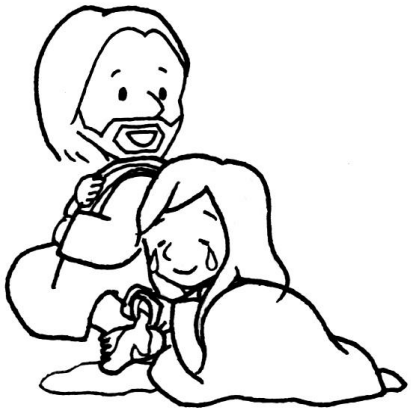
聖書 士師16・22

聖句 その髪の毛はそり落された後、ふたたび伸び始めた。 22節

神様は、罪を犯したサムソンを見捨てませんでした。自分勝手ばかりして神様を悲しませたサムソンだったけれど、自分がナジル人だったこと、力は神様のものだとわかったのです。そして、心からお祈りしたサムソンに、神様はペリシテびとを倒す大きな力をもう一度与えたのです。

わたしたちをイエス様の十字架によって赦してくださった神様は、罪はお嫌いになりますが、心から悔い改める人を決して見捨てず、また立ち上がらせてくださいます。この神様の愛と憐みに応えて生きていこうね！

祈り 天のお父様、失敗しやすいわたしですが、悔い改める時にもう一度立ち上がれるようにしてくださる愛と憐みに感謝して生きます。



聖書　ルカ 7・36～50

テーマ　罪赦された者として

暗唱聖句　この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。　ルカ 7・47

目標　多くの罪を赦された者として、キリストを愛して生きる。

10 月 28 日（日）

聖書　ルカ 7・47

聖句　この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。　47節

イエス様が大好き！いつもイエス様と一緒にいてイエス様のためならなんでもできるっていう人！きっとあなたは、自分の重い重い罪がイエス様の十字架で赦されたことを心から喜んでいる人だね！じゃあ、イエス様は信じるけれど、前の自分のまま、別にイエス様のために何にもしようと思わないよっていう人！あなたは、自分の罪は赦される必要なんてない、小さな罪だと思っていませんか。その罪は、あなたが地獄で永遠に苦しむほど重いものなんです。イエス様もそう言っておられますよ！

祈り　天のお父様、わたしの罪は本当に重い罪でした。イエス様が必要です！

10 月 29 日（月）

聖書　ルカ 7・36～38

聖句　涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。　38節

イエス様がパリサイ人シモンの家に招かれて食事に行った時、町中の人から「罪人」と呼ばれている女の人がやってきて、イエス様に、自分ができる最高のおもてなしの気持ち、感謝の心を表しました。きっと皆からは「罪人」と言われ、大切にされず、仲間外れにされていたけど、イエス様だけは、自分を愛し、罪を赦して下さる本当の救い主だと心から信じていたんだね。だから自分の犯した罪を心から悲しみ、イエス様の救いを心から感謝する涙を流していたのですね。あなたの心はどうでしょう？

祈り　天のお父様、本当にわたしを愛し、罪を赦せるのはイエス様だけだと信じます。

10 月 30 日（火）

聖書　ルカ 7・39

聖句　それは罪の女なのだから。　39節

罪人の女の人がすることをイエス様が優しく受け入れたのを見て、シモンは嫌な気分になったの。律法には「罪人に触れると汚れる」って書いてあるのに、イエス様は罪人に触れた！と、心の中でイエス様を責めました。

でもね、シモンには間違っていることがありました。だれでも神様の前に行くなら皆同じ罪人なのに、自分の心の中にある罪は見ようとしないで、人の罪ばかりを気にして責めていたのだから！罪を責めることのできるお方は神様だけ、赦すことができるのも神様だけ。その罪を赦すためにイエス様が来てくれたのです。あなたは、人の罪ばかり見て責めていませんか？

祈り　天のお父様、わたしも、あなたの前に行くときには罪人です。どうか人の罪ばかりでなく自分の罪にこそ気づけますように。

10月31日（水）

聖書 ルカ7・44～46

聖句 この女を見ないか。　44節

自分が「罪深い者」とは気付かなかったシモンに、イエス様は女の人の姿を見せました。

シモンはイエス様を、ごはんを食べるために招いたお客さんだとは思っていたけれど、救い主だから招いたのではなかったの。ところが、女の人を見て！イエス様を「わたしの罪のために来てくださった救い主」と信じて、心の中にまでお迎えしていたのです。赦されないで当然の罪が赦され、心に感謝がいっぱいに溢れていることや、今自分にできる精一杯の愛をイエス様にお捧げしたことがわかるでしょう？

イエス様はあなたにとって、ただの偉い人でもお客さんでもなく、あなたの救い主です！あなたの心からの感謝と愛を捧げていこうね。

祈り 天のお父様、シモンのようにではなく、イエス様を心にまでお迎えして、わたしの愛をイエス様にお捧げします。

11月1日（木）

聖書 ルカ7・47

聖句 少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。　47節

おうちに大切なお客さんが来たとき、どうしますか？スリッパをだしたり、おしぼりをだしたり、久しぶりに会う人なら握手したり抱き合って喜ぶかもしれないね。でも、シモンはイエス様を招いた時、汚れた足をきれいにしてあげなかったし、挨拶のキスもしなかったの。自分は良いことをしているぞ！って満足していたけれど、それは自分勝手な愛、自分がよければいいという愛、いいえ、本当は愛がなかったのかも。本当の愛はね、自分の中からは出てきません。あなたを愛し、赦してくれたイエス様がわかるときに、あなたも本当の愛を持つ人間、自分ではなく人を愛する人間になりますよ。

祈り 天のお父様、イエス様の愛をもっと知って本当の愛を持つ人間、自分よりも人を愛することができる人間にしてください。

11月2日（金）

聖書 ルカ7・48～50

聖句 安心して行きなさい。　50節

イエス様を心から信じていた女の人に、イエス様は「あなたの罪はゆるされた」、「安心して行きなさい」と言われました。

どうして安心していいの？それはね、その人がもう罪の罰を受けなくてもよくなったから。信じた瞬間、その罪はイエス様が代わりに全部背負ってくれたから！そして、あの十字架にイエス様がかかって罰を受けた時、イエス様が背負ってくれた沢山の人の罪、あなたの罪も一緒に処分されたの。人の罪の代わりに死ぬ、これほど大きな愛はどこにもありません！！

そして、わたしたちはイエス様の愛と赦しを知った人になって、喜び、感謝して、生きていけるのです。なんという大きな安心でしょう。

祈り 天のお父様、イエス様の身代わりの十字架によってくださる安心を感謝します。

11月3日（土）

聖書 ヨハネ15・12

聖句 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。　12節

どうしてイエス様は、わたしたちの罪を背負って、そして死んでまで、わたしたちを愛し、赦してくれるの？

それはね、神様がイエス様の命を捨ててもいいほどに、あなたを愛していることを知ってほしいから。そして、イエス様が本当に罪深いわたしたちにそうしてくれたように、あなたも、どんな人でも愛し、赦せる人になっていくためです。そのためにあなたは特別に選ばれているんですよ！イエス様の命がけのお手本がわかりますか？イエス様の教えを守って愛し、赦せる人になろうね！

祈り 天のお父様、イエス様の命がけのお手本に従い、愛し合い、赦し合えますように。



聖　書　ルカ 10・25～37

テーマ　近づき助ける

暗唱聖句　この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。　ルカ 10・36

目　標　助けを求める人々に、よき隣人として近づき助ける者となる。

11 月 4 日（日）

聖書　ルカ 10・25～37

聖句　この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。　36節

「ウワッ！だれかあそこに倒れている！死にそうだなあ‥‥」と思いながらも、道の反対側を通り過ぎて行ったのは、人々のために神様にお祈りする祭司さんでした。神様の神殿でお仕えしていたレビ人がやってきましたが、見て見ぬふりして行ってしまいました。やがて、ユダヤ人から嫌われていたサマリヤ人がやってきて、「おお、かわいそうに」と、傷の手当てをし、自分の家畜に乗せて、宿屋まで連れて行きました。三人のうち本当の隣り人って誰？！

祈り　天のお父様、このよいサマリヤ人のように、本当の隣り人になって近づいていける子どもになれますように。

11 月 5 日（月）

聖書　ルカ 10・25～28

聖句　先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。　25節

「質問！」といってたずねる時、色々なたずね方があるようですね。本当にわかりたい人もあれば、ここの律法学者さんのように、イエス様をためそうと、ちょっといじわるっぽい質問をする人もあるようです。でもイエス様にはそのことがよくわかっておられました。それにしても、人はみんなだれでも死ぬ時が来るのがわかると、まじめにこの質問をしたくなると思いませんか？そして永遠の生命がほしいなと、きっとあなたもそう思うでしょう？

祈り　天のお父様、どのようにしたら、永遠の生命が与えられるのか、本気でたずねます。与えられたいと思います。

11 月 6 日（火）

聖書　ルカ 10・25～28

聖句　あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。　28節

「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」。さすが律法学者さんですから、イエス様から、「律法にはなんと書いてあるか？」とたずねられて、この二つの大切なましめがスラスラと口から出てきました。「正解！」とイエス様がおっしゃって、さらに「そのとおり行いなさい」と言われたのでした。知ってることと、それを行うこととはちがうのですね。

祈り　天のお父様、あなたの一番大切なましめを心に刻みます。そのみ言葉を行える者となれますよう助けてください。

11月7日（水）

聖書 ルカ 10・28〜29

聖句 では、わたしの隣り人とはだれのことですか。 29節

どうも、この律法学者さんは、律法の言葉は頭に入っていて、口からもスラスラ出てきましたが、(そうね、これだけでも偉いなと思いますか!?) きっと、その律法を行ってはいなかったようですね。こういうのを「有言不実行」と言うのかな？それでわざわざ、「じゃあ、イエス様、わたしの隣り人って一体だれのことですか?」って、たずねたのでした！隣り人が誰なのかわかっていなかったので、隣り人を愛するということができていなかったのです。

祈り 天のお父様、わたしも隣り人とはだれなのかはっきりとわかって、その隣り人を愛する子どもになりたく思います。

11月8日（木）

聖書 ルカ 10・30〜31

聖句 ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。 31節

イエス様は、「本当の隣り人」とはどういう人かをわからせるために、このたとえ話をしてくださいました。強盗どもにおそわれ、着物をはぎ取られ傷を負って半殺しにされて、道ばたにたおれていた人・・・・・。そのそばを通りかかった最初の人は「祭司」です。人々のために祝福を祈り、神様にとりなし祈る人です。それなのに、たおれている人を見たのに、向こう側を通って行ってしまったというのです！こんな人にかかわってなんかいられない、とね。

祈り 天のお父様、何ということでしょう。わたしの心にもこんな思いがあるかないか、とても考えさせられてしまいます。

11月9日（金）

聖書 ルカ 10・32

聖句 同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。 32節

さあ、次の人がやってきました。この人はどうでしょうか。この場所にさしかかってきた第二の人は、「レビ人」でした。神様に特別に選ばれて、神殿の中で、大切なきよいご奉仕のために用いられていた人ですよ。アレ!?この人もたおれている人を見ると、前の祭司と全く同じように、向こう側を通って、行ってしまったのでした！これはまた、何ということでしょう。あんな人にさわったりしたら私は汚れてしまう、と思ったのでしょうね。

祈り 天のお父様、神様のお働きをする人なのに、愛も同情も少しもないなんてと思ってしまいます。残念な事です。

11月10日（土）

聖書 ルカ 10・33〜37

聖句 「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。 37節

ところがです！三番目に通りかかった「サマリヤ人」はちがいました。ユダヤ人からは嫌われていたのに、この人はたおれている人を見て、『気の毒に思い』、そう、可哀想に思い、近寄って手当をし、宿屋に連れていって面倒を見てあげました。必要な費用も全部出してあげたのです！この人こそ真に隣り人になってあげた人でしたね！実はこの人の心に神様の愛の命、永遠の生命があったのでできたのです。罪をおわびして新しい永遠の命をいただきましょう。

祈り 天のお父様、あなたの命をいただいて助けを求める人々に近寄っていける、真の隣り人になれるよう助けてください。



聖書　ルカ 15・11～24

テーマ　神に立ち返る

暗唱聖句　このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。

ルカ 15・24

目標　神のもとに真の幸いがあることを知り、神に立ち返る者となる。

11 月 11 日（日）

聖書　ルカ 15・11～24

聖句　このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。　24節

「お父さん！わたしがいただける財産をください」と、ある日突然、二人の息子のうちの次男がそう言い、たくさんのお金を持って家を出て行きました。お父さんは毎日のように、きょうかきょうかと帰りを待ちました。その息子は財産を使い果たし、ボロボロになり命からがら、でも心から悔改めて父のもとに帰ってきたのです。父は大喜びで迎え、みんな赦して、手放しで受け入れたのです。父なる神様のお姿です。罪をおわびして神様のもとに帰ろう！

祈り　天のお父様、あなたのもとにのみ本当の安心、喜び、幸せがあることが、このお話でよくわかります。

11 月 12 日（月）

聖書　ルカ 15・11～12

聖句　父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください。　12節

ふつう財産をゆずってもらうのは、お父さんが亡くなったあとなのですが・・・・・。弟息子はこんな無理な注文をお父さんにしました。やさしいお父さんはちゃんと二人の息子たちに分けてあげたのです。弟息子は、自分の思うとおりに、やりたい所へ行き、やりたい放題にできることが自由だし、幸せだと思っていたにちがいありません。神様を信じない時には、みんなそう思うのですね。あなたもそう思いますか？

祈り　天のお父様、あなたから離れていては、何をしたとしても、幸せでも満足でもないことをよくよくわからせてください。

11 月 13 日（火）

聖書　ルカ 15・13～14

聖句　何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることにも窮しはじめた。　14節

たくさんの財産をもって、弟息子は家から遠い所へ行きました。「さあ、自由だぞぉー！」って。お金のことを「お足」というくらい、お金には足があって、あっという間に逃げて行くのです！悪い遊びのとりこになって、たちまちお金は消えてしまいました。おまけにその地方にひどいききんがあって、彼は食べることさえ困るほどになりました。さあ、大変。頭の中は真っ白、顔はまっ青、胃袋はカラッポです。

祈り　天のお父様、自分の欲のとりこになっていく時、本当にどうしようもない所に追いやられることがわかります。

11月14日（水）

聖書 ルカ 15・15〜16

聖句 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。　16節

何か働いて、食べ物を手に入れなければ、と、ある住民のところをたずねたら、畑に連れて行かれて、「ここで豚を飼うんだぞ」と言われたのです。「えーっ、汚い動物、臭い動物だ」と思いましたし、おまけに、ますますお腹はペコペコです。背中の皮とお腹の皮がくっつくほど！「豚のえさでも・・・・・!?」と思うほどでしたが、何もくれる人はいません。死ぬほどお腹がすくなんて、とてもとても残酷ですよね。

祈り 天のお父様、昔、父のもとにいた時の弟息子とはとても思えないみじめな姿です。あなたを離れた人の姿です。

11月15日（木）

聖書 ルカ 15・17〜19

聖句 立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。　18節

「そこで彼は本心に立ちかえって」ここが一番大切なところです！彼はこれまで、うわべしか見えなかったのです。自分の心もうわべしか見えず、自分の心もごまかし、おどらされていたのです。しかし、「ここで飢えて死のうとしている」と本当の自分がハッキリ見えて、やっとこさ、ハッと、我に返った、本心に立ち返れたのです。それはつまり、神様のもとに、父のもとに立ち返ることにつながっていきました。

祈り 天のお父様、彼の心がくるっと180度、自分中心から神様の方に向きを変えられたことがわかり、感動します。

11月16日（金）

聖書 ルカ 15・20〜23

聖句 まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。　20節

「そこで立って、父のところへ出かけた」。ちゃんと、悔改めができていた証拠ですね。彼はもう、徹底的に心がくだかれ、低くされ、息子の資格はありません。雇人のひとりとして働きますとさえ言う覚悟だったのです。ところが、ところがです！父はその日息子を発見！きっと服はボロボロ、頭はボウボウ、やせこけた彼に走り寄り抱きしめ首に接吻したのです！さあ、着物だ、指輪だ、はきものだ、子牛の料理だ！って。

祈り 天のお父様、オドロクばかりの父の愛！今、あなたも、あなたのもとに立ち返る者を待ち構えておられるのですね。

11月17日（土）

聖書 ルカ 15・24

聖句 それから祝宴がはじまった。24節

「死んでいたと思っていた息子が生き返ったんだ！いなくなっていた息子が見つかったんだ！」父の喜びで興奮している様子がすごーく伝わってきます。財産を使い果たしてしまったなんて、遊びほうけていたなんて、もう、全く忘れ去られて、とにかく、息子が目の前にいるということが、最高の喜び。こんなにまでして迎えられた息子は、「ああ、お父さんのもとこそ最高に幸せなところ」と確信したでしょう。

祈り 天のお父様、何とうれしい祝宴だったことでしょう。今もあなたのもとに立ち返る時、天でも祝宴なのですね。



聖　書　ルカ 16・19～31

テ　ー　マ　死後への備え

暗唱聖句　彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよかろう。　ルカ 16・29

目　標　死後の裁きの存在を知り、み言葉によって備える者となる。

11 月 18 日（日）

聖書　ルカ 16・19～31

聖句　彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよかろう。　29節

「人間、死んだらおしまい。消えてなくなるだけさ」と考える人もいるみたいです。あなたはどう思う？聖書は神様の言葉で、ずーっとそのとおりのことが起っているので、聖書の言うことに絶対まちがいはないのです。死んでおしまいでなく、天国か、地獄か、そのどちらかで、永遠を過ごすことになるのです。なんておごそかでしょう。行ってからでは遅いのです！この金持のように、人に伝えることもできません。

祈り　天のお父様、人はだれでも死を迎えます。死んだあとどうなるのか、しっかりみ言葉によって備えさせてください。

11 月 19 日（月）

聖書　ルカ 16・19～21

聖句　ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮していた。　19節

「いいなあ、お金持は！かっこいい高価な服を着て、毎日、好き放題に、食べたり飲んだり、ぜいたくに遊び回れるなんて！」と思いますか？かと思えば、神様、不公平じゃないですかと言いたくなるかわいそうなラザロの姿。貧乏で全身でき物でおおわれて、そのでき物を犬になめられるなんて！ラザロとは「神はわが助け」という意味の名前で、そんなあわれな姿でしたが神様を信じていた人だったのです。

祈り　天のお父様、人の一生は地上だけではないと思うと、この二人についていろいろ考えさせられてしまいます。

11 月 20 日（火）

聖書　ルカ 16・22～23

聖句　この貧しい人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。　22節

やっぱり！ということですね。名前のとおり、神様を信じていた貧しい人ラザロがついに死にました。お葬式さえ、だれにもしてもらえなかったようです。でも御使たちに連れられて、天にいる信仰の父アブラハムのふところに送られていきました。金持も死に、きっと盛大なお葬式をしてもらったのでしょうが、なんと苦しい黄泉にいるではありませんか！そこからあのラザロがアブラハムといるのを見たのでした。

祈り　天のお父様、死んでのち、どこへ送られるのかは重大です。あなたを信じてまちがいなく天国に行きたいです。

11月21日（水）

聖書 ルカ16・24～26

聖句 ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。 24節

冬になればたき火をします。身体が暖まってうれしいのですが、そのたき火の炎の中に入ると大変です。ギャーッ！ってとび出るでしょう。ここの金持はそんな炎の中でずーっといて苦しみ続けるのですから、まさに地獄、黄泉の苦しみです。ラザロをつかわしてくださいとお願いしても、あなたとわたしたちの間には大きな淵があって、どちらからもそこを越えて行くことはできませんよとの答です。恐ろしいばかりです。

祈り 天のお父様、一度この地獄の炎の中に入れられると、もう決して二度とそこからは出られないと知りました。

11月22日（木）

聖書 ルカ16・27～29

聖句 父よ、ではお願いします。わたしの父の家へラザロをつかわしてください。 27節

「では、せめて、まだ地上にいるわたしの五人の兄弟のところにラザロをつかわしてくださって、こんな苦しい所へ来ることがないように、伝えさせてください」と、金持はアブラハムにお願いします。アブラハムは答えます、「彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよかろう」と。わざわざラザロが行かなくても、モーセや預言者はちゃんと神の言葉を語っているし、神を信じるように勧めているのだからと。

祈り 天のお父様、今、わたしたちにも大切な聖書を通して、あなたが人生で一番重要なことを教えていてくださり感謝です。

11月23日（金）

聖書 ルカ16・30～31

聖句 死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう。 31節

「いえいえ、アブラハムさん、さすがに、死人の中からだれかが兄弟たちの所に行ってくれるならば、きっと、彼らは悔い改めるにちがいありません」と、金持は言います。アブラハムは、「その考えは甘いよ」と言わんばかりです。「もし彼らがモーセにも預言者にも耳を傾けないなら、たとい死人の中からよみがえってくる者が言っても、彼らは聞き入れはしないよ」と。み言葉にしっかり聞きたいね！

祈り 天のお父様、あなたの聖書のみ言葉をよくよく聞いて、死んだのちのために、よい備えができるよう助けてください。

11月24日（土）

聖書 ヘブル9・23～28

聖句 一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることとが、人間に定まっている 27節

ここにハッキリと記されています。だれも死んでおしまいではないのです。お墓に入っておしまいでもありません。どんな人でも、金持でも貧しい人でも必ず一度は死に、そして、死んだ後、さばきを受けることがちゃんと、神様によって定められています。その時、わたしの罪の代わりに十字架で一度だけ死んで、よみがえってくださった救い主イエス様を信じるなら、永遠の天の御国に入れてもらえます。信じましょう。

祈り 天のお父様、あなたが準備していてくださる天国に送っていただくために、しっかりとみ言葉に聞き従います。



聖書　ルカ 17・11～19

テーマ　恵みへの感謝

暗唱聖句　神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。

ルカ 17・18

目標　受けた恵みに感謝し、神をほめたたえる者となる。

11 月 25 日（日）

聖書　ルカ 17・11～19

聖句　神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。　18節

「ありがとう！」「感謝します！」「サンキューベリーマッチ！」ってあなたはよく言いますか？声に出して言うとますます感謝があふれます。だれかに言えば、聞くその人もうれしくなるでしょう。この感謝の言葉を、わたしたちは、もっともっと、神様に言いたいですね。ここでは十人のうちのたった一人だけイエス様のところで感謝したのでした。今週は毎日、イエス様によくしていただいたことを感謝しましょう。

祈り　天のお父様、収穫をたくさんくださって感謝します。他にもあなたからいただいている一つ一つを感謝いたします。

11 月 26 日（月）

聖書　ルカ 17・11～13

聖句　声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。　13節

イエス様がエルサレムへ行かれる途中、ある村でのできごとです。なかなかなおりそうもない重い皮膚病の人々が十人いました。彼らはうわさに聞いていたイエス様がその村に入ってこられるのを見て、遠くの方で立ちとどまって、大声を張りあげてイエス様の助けを求めました。恥ずかしいなんて言ってられません。イエス様だったらきっといやしきよめてくださると信じて、とにかく最大ボリュームで叫びました。

祈り　天のお父様、この十人の病気の人たちの叫びは、イエス様に届きました。私も信仰をもって必死に求め続けます。

11 月 27 日（火）

聖書　ルカ 17・14

聖句　そして、行く途中で彼らはきよめられた。　14節

イエス様から言われたことには、「ハーイ！」と言って、すぐに素直にその通りにすると、いつも素晴らしいことがおこるのですね。ここの十人の人たちは、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」とイエス様に言われて、「ハーイ！」と、きっと走って行ったのでしょう。すると、なんと！行く途中でみんなが、「アレレ、スゴイゾ！なおってるよー！」と気づいたのです。イエス様の偉大なみわざ！

祈り　天のお父様、イエス様のお言葉にすなおに従う時、なおりそうもない病気さえいやされるとはとてもスゴイです。

11月28日（水）

聖書 ルカ17・15〜16

聖句 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。16節

おや？九人の方々、何か忘れてはいませんか？と言いたいところです。十人の中のたったひとり、しかもユダヤ人でなく、ユダヤ人から嫌われていたサマリヤ人だけが、イエス様のみもとに帰ってきて、足もとにひれ伏して感謝したのでした。大声で、「ハレルヤー！神様、あなたのいやしを感謝します！あなたを心よりほめたたえます」と叫びながらね。わたしたちももしかしたらよく忘れてしまっているかもね。

祈り 天のお父様、あなたから祝福されたり、祈りにこたえられた時、あなたに感謝することを忘れないようにお守りください。

11月29日（木）

聖書 ルカ17・17〜18

聖句 きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。17節

イエス様も、不思議に思われたのですね。たしか、十人いたはず、しかもみんなきよめられたはず、ほかの九人は、一体どこに行ってしまったのか？うれしい、うれしいで、きよめてくださったイエス様のことはすっかり忘れ、感謝をおささげしに、イエス様のもとに帰ってくることも全く頭になかったようです。やってきたのはたった一人の他国人！わたしたちもこの九人のような失敗をしませんように。いつも主に感謝！

祈り 天のお父様、あなたからよいものをたくさんいただきっぱなしで知らん顔でなく、いつも一つ一つ感謝できますように！

11月30日（金）

聖書 ルカ17・19

聖句 立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。19節

イエス様は、この一人のサマリヤ人に、心をこめて言われました。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」とね！え？イエス様が、十人を全くきよめてくださったのでしょう？そのとおりです。でも十人の人たちはイエス様を信じて、言われるとおりにしました。その信仰をイエス様はとても喜ばれました。そして感謝をささげる信仰をさらに喜ばれました。このみ言葉をいただいたのは、この人一人でした。

祈り 天のお父様、あなたの喜ばれる信仰がよくわかりました。きちんと感謝をおささげする信仰を持ちたいです。

12月1日（土）

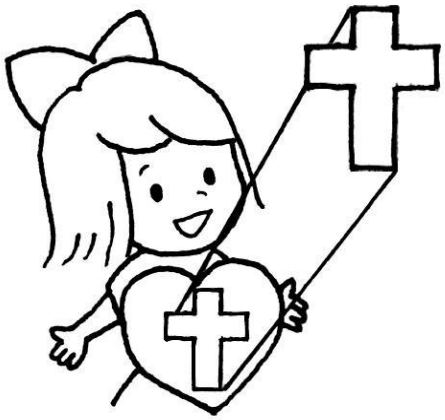
聖書 詩篇100・1〜5

聖句 感謝しつつ、その門に入り、ほめたたえつつ、その大庭に入れ。主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。4節

よい収穫感謝の礼拝をおささげしてこの一週間も守られてきたことでしょう。この詩篇は感謝の礼拝の詩篇です。わたしたちは神様に造られました。わたしたちは神様のものです。神様は偉大な羊飼いのようです。わたしたちは神様の大きな牧場の中で、守られ、育てられ、養われている羊のような者たちです。たくさんの収穫物を神様はわたしたちに与えてくださって、身も心も魂も満ち足らせてくださいます。ですからハレルヤ!

祈り 天のお父様、いつまでも続く、あなたの恵みといつくしみとまことのゆえに、心いっぱいあなたをほめたたえます。

Ｉアドベント



聖書	ルカ３・1～6
テーマ	主の道を備えよ
暗唱聖句	主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。ルカ３・4
目標	キリストを心にお迎えするにふさわしく備える者となる。

12月2日（日）

聖書 ルカ3･1～6

聖句 主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。 4節

さぁ、今年も第一アドベント、待降節を迎えました！なんとなく、ワクワク、ウキウキしてきますか？そんな心の中を、しっかり備えようというみ言葉です。救い主としておいでくださるイエス様のために、「道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」との勧めです。イエス様にスーッと心に入ってきていただけるように備えるのですが、ハテ?!一体どのようにして？この一週間でみ言葉から学んで備えましょう。

祈り 天のお父様、イエス様のお生まれを記念するクリスマスに備えるアドベントの時、心をしっかり備えてください。

12月3日（月）

聖書 ルカ３・1～2

聖句 神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。 2節

イエス様をお迎えするために、人々の心を備える役として、神様に用いられた人がここに登場します。「ザカリヤの子ヨハネ」です。子どもが産めなかったお母さんのエリサベツと父ザカリヤに、神様が不思議なことをしてくださって、誕生した男の子でした。荒野でひとり野蜜を食べて暮らしていたヨハネさんに、神様はみ言葉を語り告げられたのでした。荒野のような寂しい所で神様はよくわたしたちに語られるのです。

祈り 天のお父様、ひとりでいることは寂しいですが、そんな時あなたがみ言葉を語ってくださると知り感謝です。

12月4日（火）

聖書 ルカ３・3

聖句 彼はヨルダンのほとりの全地方に行って、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。 3節

「ごめんなさい」、「ボクが悪かったです」、「わたしがまちがっていました」、「もうしません」こんなことを言うのは、とても心が苦しいし、あまり言いたくないことかもしれませんね。こうすることを「悔改め」と言います。そして、これはとっても幸せで、祝福されたことなのです。それによって、罪がゆるされ、新しい心と新しい生き方が与えられるからです。それでヨハネはバプテスマのヨハネと呼ばれました。

祈り 天のお父様、罪を心にいつまでも持っているのでなく、悔改めて、罪をゆるしていただけるよう導いてください。

12月5日（水）

聖書 ルカ3・4〜6

聖句 荒野で呼ばわる者の声がする、「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」。 4節

お手紙もらうの好きですか？ちゃんとファイルしておけば、何回でも読めますね。今ごろはメール時代！CメールやEメールも記録に残って、あけて見ればちゃんと読めます。でも「声」は？電話の声も、お話している声も、ここのヨハネさんのように荒野で呼ばわる声も、消えていくものですね。心にしっかり残るメッセージを伝えて、わたしは消えていく「声」ですとヨハネさんはとてもへりくだっていた人ですね。

祈り 天のお父様、イエス様のために道を備える大切な役目を果たしたヨハネさんの謙遜な姿に見ならいたいです。

12月6日（木）

聖書 ルカ3・4〜6

聖句 すべての谷は埋められ、すべての山と丘とは、平らにされ。5節

道を備えるとは、デコボコをなくすることなのですね。わたしたちの心に道を備えるとは？「谷は埋められ」ひっこんでいる、低くなっている心、遠慮しすぎている心は、埋められて少し高くしてもらわねばなりません。「すべての山と丘とは、平らにされ」高ぶりの心や自慢する心、山や丘のように、出すぎている心は、けずられて平たくならしてもらわねばなりません。まっ平いらの心にしていただいて備えましょう。

祈り 天のお父様、わたしの心の中の谷や、山や丘をあなたは知っておられます。きれいに平たい心にしてください。

12月7日（金）

聖書 ルカ3・5〜6

聖句 曲ったところはまっすぐに、わるい道はならされ。 5節

「その道筋をまっすぐにせよ」とは、「曲がったところはまっすぐに」とありますね。わたしたちの心も曲がるのかな？そう、心が曲がっている時ってあるのですね。お父さん、お母さん、先生やお友だちの言うことをすなおに真すぐに聞けなくて、ひねくれて聞いたりするのは、心が曲っているのです！「わるい道」って？石ころや穴ぼこがいっぱいある道、そう、わたしたちの心にも、汚ない臭いいやなものがありますね。

祈り 天のお父様、わたしの心をちゃんとのぞき、曲ったところ、わるい心を悔い改めて主のための道筋をまっすぐにします。

12月8日（土）

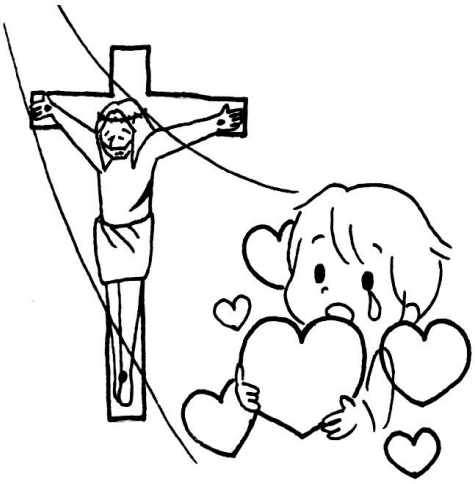
聖書 ルカ3・6

聖句 人はみな神の救を見るであろう。 6節

ヨハネさんの叫ぶ声に従って、わたしたちの心が悔改めによって、備えられる時、「救い主イエス様、どうぞわたしの心にお入りください」とお祈りをして、イエス様を心にお迎えできるのですね！その時から、イエス様は、毎日、ずっとわたしの心にお宿りくださいます。するとどうなるのでしょう？心が変わると、わたしたちの言葉や行いがイエス様に喜ばれるように変えられていきますから不思議！神の救って素晴らしいね！

祈り 天のお父様、自分ではどうしようもできないわたしの心にイエス様がお入りくださって救われることを感謝します。

Ⅱアドベント



聖書　Ⅱコリント8・1～15

テーマ　キリストの恵みを知って

暗唱聖句　主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。　Ⅱコリント8・9

目標　私たちのために貧しくなってくださったキリストの恵みを知り、与える者となる。

12月9日（日）

聖書　Ⅱコリント8･1～15

聖句　主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。9節

「ワーイ！もうすぐクリスマス！今年のプレゼント、何もらおうかな？アレかな？コレにしようかな？」なんて考えていますか？クリスマスは、天からかけがえのない宝を、もういただいていることを感謝する時です。それは『救い主イエス・キリスト様』ですね！イエス様がこの地上に来られる前は、あまりにも豊かな光り輝く栄光のみ国に父と共におられました。その方がわたしたちのために暗く醜く冷たい世に来てくださったのです。

祈り　天のお父様、あなたが救い主をプレゼントしてくださり、救い主はわたしのために貧しくなってくださり感謝します。

12月10日（月）

聖書　ルカ2・1～7

聖句　初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。7節

どんな風に、貧しくなってくださいましたか？ここはクリスマスに必ず聞くところですね。神のひとり子なのに、とってもひっそりとしたお生れでした。オギャーと生れたイエス様のまわりにいたのは父ヨセフと母マリヤ、そして何頭かの家畜だけでした！しかも、救い主イエス様が生れてすぐ横たえられた所と言えば、「飼葉おけ」！牛や馬がごはんを食べる臭く小さく冷たい所でした。何て貧しいお誕生でしょう！

祈り　天のお父様、栄光に照り輝く、天のみ座から、急降下！貧しい家畜のえさおけに。信じられない貧しさです。

12月11日（火）

聖書　ピリピ2・1～5

聖句　キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。5節

イエス様と一緒にすごした１２人のお弟子たさんたちも、わたしたちと同じ人間でした。いつでも、「だれが一番えらいか」ということばかり考え、争っていました。人はみんな、他の人より上にいたいのです。でもイエス様のお心は全く反対！貧しくなること、低くなること、仕えること、与えることで心がいっぱいだったのですね。わたしたちがみんなイエス様の心で生きていくと、きっとまわりが変わると思いませんか？！

祈り　天のお父様、このアドベント、本当にわたしのためにイエス様がどれほど貧しくなってくださったか、味わいます。

12月12日（水）

聖書 ピリピ2・6～8

聖句 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。 8節

「ボクがここまで低くなってあげているんだから、キミもそうしてよ」というのとは全然ちがってるイエス様の、もうこれ以上できないというまでの貧しさと低さでした。三本の十字架のまん中で、わたしたちのために、命を丸ごと与えてくださったのでした。陰府の深みまで降り、父なる神様から完全に捨てられてくださって、わたしの代わりに『死』を通ってくださいましたイエス様、心よりありがとうございます。

祈り 天のお父様、救い主イエス様が、もうそれ以上降れない所まで降って、身代わりの死を味わってくださり感謝です。

12月13日（木）

聖書 使徒行伝20・32～35

聖句 受けるよりは与える方が、さいわいである。 35節

「大きいケーキはわたしのもの、小さいのはあなたの」、「ボクのものはボクのもの、キミのものもボクのもの」！！こんなふうに考えている人が多い世の中ですよね。でもイエス様の教えはそうじゃなかったよ、とパウロ先生はエペソの長老さんたちにお話ししました。「もらう」ことはやっぱりうれしいけれど、実は、「与える」ことの方が、その何十倍も幸せなのですと。そうして主は命まで与えてくださいました。

祈り 天のお父様、イエス様の教えと、イエス様が実行してくださった「与える」さいわいをわたしも知りたいです。

12月14日（金）

聖書 Ⅱコリント8・1～2

聖句 その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。 2節

ちょっと歯が痛いだけでも、もう何も手につかないよ、人のことなんか考えてあげるゆとりもないよとなります。ところがマケドニヤのピリピ教会やテサロニケ教会の人々はどうだったかというと…。パウロ先生が喜んであかししています。「患難のために激しい試練をうけた」のに、「極度の貧しさにもかかわらず」、救い主の恵みにより満ちあふれる喜びをもって、あふれるほど与えて、富んでいる人々です、と。

祈り 天のお父様、イエス様の与える愛と恵みが心底わかる時、わたしたちもまた喜んであふれ出るささげものができると知りました。

12月15日（土）

聖書 Ⅱコリント8・3～5

聖句 わたしはあかしするが、彼らは力に応じて、否、力以上に施しをした。 3節

「そうねえ、ここらくらいまではできるけど、もうこれ以上は無理、限界、わたしの力をこえています」ということにでくわすでしょう。ところがすごいことに、このマケドニヤ諸教会の人々は、「力に応じて、否、力以上に施しをした」と、とことん愛する愛に押し出されて、人から言われてでもなくて、「自ら進んで」、「熱心に願い出て」、自分も奉仕も献金もささげました。なんと迫力ある信仰！

祈り 天のお父様、わたしもマケドニヤ諸教会の方々の、イエス様への愛と奉仕とささげものにとてもならいたいです。

Ⅲアドベント



聖書　マタイ 1・18～25

テーマ　救い主としての誕生

暗唱聖句　彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。　マタイ 1・21

目標　救い主として誕生されたキリストにより罪赦され、救いを頂く。

12 月 16 日（日）

聖書　マタイ 1･18～25

聖句　彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。　21節

あなたも「待って、待って、待って、待って･･･やっと！」、ということがありましたか？イスラエルの人たちも、「メシヤ（救い主）」の誕生を「待って、待って、待って」いたのです。そんなスペシャルな救い主のお誕生でしたから、いろいろと「？」ハテナ？と首をかしげることもいっぱいでした。ヨセフさんは、「？」だけでなく、すごーく悩みに悩んだのですね。でも、主の使によってみごと解決されました。

祈り　天のお父様、「罪から救う者となる」イエス様のお誕生を感謝します。わたしも罪をゆるされて救われたいです。

12 月 17 日（月）

聖書　マタイ 1・18～19

聖句　母マリヤはヨセフと婚約していたが、まだ一緒にならない前に、聖霊によって身重になった。　18節

まずは最初の「？」ですね。まだちゃんと結婚もしていないのに、婚約していただけなのに、マリヤさんのお腹が大きくなってきた！聖書には「聖霊によって」と書いてあります。神様の聖い霊によって、赤ちゃんイエス様がマリヤのお腹に宿ったのでした！でもそんなことをまだ全然知らなかったヨセフさんはとても悩んで、苦しんでマリヤと縁を切ろうと心に決めました。マリヤは一言も言っていなかったのですね。

祈り　天のお父様、聖霊によってマリヤのお腹に宿られた救い主イエス様は、本当に清いお方だとよくわかります。

12 月 18 日（火）

聖書　マタイ 1・20～21

聖句　ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。　20節

マリヤのあつい信仰を神様はきっと喜ばれたにちがいありません。そしてあれこれ思いめぐらす、心優しいヨセフのために神様が主の使をつかわして告げさせます。「恐れることはない、心配しないでいいのだよ」これはいつでも神様が人にあらわれてくださる時の決まり文句です！マリヤは聖霊によって子を宿している、その子は罪からの救い主だから、安心してマリヤを妻として迎えるがよいと。ホッとしましたね。

祈り　天のお父様、わからなくて悩む時も、あなたは優しくわかるように教えてくださり、心より感謝いたします。

12月19日（水）

聖書 マタイ1・22

聖句 すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。22節

「へェー、この赤ちゃんイエス様は預言されていて、生れてきたのかぁ」って、驚きましたか？何年くらい前にどんな預言者によって、告げられていたと思いますか？イエス様、誕生の７００年前でしたよ！その預言者のお名前は、「イザヤ」です。イザヤ７・１４を開いてみてください。ホントウニ！！私たちには明日のことも、いえ、今日のことだって何があるかわからないのに！神様の預言（み言葉）のスゴサ！

祈り 天のお父様、あなたのみ言葉、預言者に語らせた預言は、１００%その通りになることに、改めてオドロキます！

12月20日（木）

聖書 マタイ1・23

聖句 見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。 23節

「今度生れる子はボクの弟かな？妹かな？」お母さんのお腹に宿って五カ月くらいしたら、「男の子ですよー」とか「女の子ですよー」ってわかるのですね！でもここは７００年も前から、「男の子ですよー」って記されてます。そしてとても素敵なお名前までね。「インマヌエル」イスラエルの人の言葉でヘブル語なのです。これを日本語に訳すと、「神われらと共にいます」となります。何て力強くて良いお名前でしょう！

祈り 天のお父様、やっぱり、救い主イエス様のお誕生は、どんなにかスペシャル（特別）だったかよくわかります。

12月21日（金）

聖書 マタイ1・24～25

聖句 ヨセフは眠りからさめた後に、主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた。 24節

あなたももしかして、夢の中で、神様の声を聞いたりしたことありますか？！ヨセフは、夢の中で、これらのことを知らされ、また神様からの命令を聞いたのでした。「なぁんだ、夢だったんだよね」って、忘れてしまったり、放っておいたりはしませんでした。しっかりと心の奥で受け止めました。そして、「主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた」のです。マリヤもイエスもヨセフの信仰に守られました。

祈り 天のお父様、あなたのなさることは少しの狂いもないことを覚えます。どこまでもあなたを信じぬいていきます。

12月22日（土）

聖書 ヨハネ1・24～34

聖句 見よ、世の罪を取り除く神の小羊 29節

「主の道を備えよ」と荒野で叫んでいたバプテスマのヨハネ登場。ヨハネは、「わたしは水でバプテスマを授けるが、わたしのあとにもっとすぐれた方が来られる」と言っていました。ついにヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て、イエス様を紹介しました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と！イエス様は３０歳になって、世の人々の前にあらわれられました。ヨハネの紹介はまさにズバリでした。

祈り 天のお父様、わたしも罪を悔い改めて赦していただいて、罪から、永遠の滅びから救われて毎日を過ごしたいです。

クリスマス



聖書　マタイ２・1～12

テーマ　王なるキリストを迎える

暗唱聖句　ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。　マタイ２・２

目標　キリストを心に王として迎える。

12 月 23 日（日）

聖書　マタイ 2･1～12

聖句　ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。
2節

メリー・クリスマス！クリスマス、おめでとうございます！きょうはクリスマス聖日です。全世界の教会でイエス様のお生れを記念して、クリスマス礼拝がもたれますよ！わたしもその中のひとりになれて幸せ！と思うでしょう？クリスマスの幸せ、それはわたしたちが罪から救われる喜びと、イエス様をわたしたちの心に「王様」としてお迎えできることです。わたしの心と人生を素晴らしく治めていただけるのですから幸せです。

祈り　天のお父様、イエス様を罪からの救い主と共に王様としておつかわしくださって心よりありがとうございます。

12 月 24 日（月）

聖書　マタイ２・1～2

聖句　わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました。
2節

教会学校や教会の礼拝に来るのに、あなたはどれくらい時間がかかりますか？ゼロ分！教会に住んでいればね！歩いて１０分、チャリで３０分、車で一時間、もっとかけて来る人もいる？エライ！ここに東の方でその星、ユダヤ人の王としてお生れのメシヤのしるしを見て拝みにきた東方の博士さんたちは、何と一年以上もかけて、はるばるやってきたのでした！感動ものです。それほどにもその方に会いたかったのですね！

祈り　天のお父様、博士たちに負けないくらい教会に励んでしっかりお話を聞いてイエス様とお会いしたいです。

12 月 25 日（火）

聖書　マタイ２・3～6

聖句　彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです」。　5節

「ユダヤ人の王だと？！わたし以外に一体だれが王なんだ？！」と、その時の王様ヘロデは考えて、心が不安になってきました。エルサレムの人たちも同じく不安に思いました。そこで学者たちを全部集めて、キリストはどこに生れるのかとたずねると、「ユダヤのベツレヘムです。預言のとおりです」との返事。王だから宮殿かなと思って、博士たちはやってきたのでしたが、そうではなくベツレヘムだとわかりました。

祈り　天のお父様、クリスマスを感謝いたします。イエス様のお誕生の地名までがちゃんと預言されていたことに、またまた感動してしまいます。

12月26日（水）

聖書 マタイ2・7〜8

聖句 行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから。 8節

ヘロデ王は、こっそり博士たちを呼んでたずねました、「その星はいったい、いつごろ現れたのか？どのような星だったのか？」などと。そして、博士たちをベツレヘムへ行くようにとつかわしました。エルサレムからは８キロばかりです。歩いても２時間もあれば行けます。でもヘロデも学者たちもだーれもエルサレムから行く人はありませんでした。「見つけたら知らせてくれ、あとから拝みに行くから」と。

祈り 天のお父様、ヘロデ王も律法をよく知っている学者たちも本当の礼拝者ではありませんでした。考えさせられます。

12月27日（木）

聖書 マタイ2・9〜10

聖句 彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。 10節

さて、博士たちは…「わかりました、感謝です、そのようにいたしましょう」と王に答えて、「さあ、出発だ！目ざすはベツレヘム！」と出かけようとすると！「おお、あの星ではないか」博士たちは目を輝かせて、先に進んでいく星を見ながら、ついて行くと、「お！止まった、あの家の上にとどまったぞ」そうです。幼な子イエス様のおられる所でした。博士たちの胸はほんとうに喜びにはち切れそうでした。

祈り 天のお父様、「王なる救い主を拝める！」と喜びにあふれた博士たちのようにわたしも期待に満ちて教会に行きます。

12月28日（金）

聖書 マタイ2・11

聖句 宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。 11節

喜びと感激でふるえるような心で、博士たちは家にはいらせてもらったことでしょう。母マリヤのそばにいる、まだ２歳にもなっていない幼な子に会いました！彼ら、大の男たちが、そんな小さな幼な子の前に、ひれ伏して拝んだのです。だって、王様なのですから。また、大切に持ってきた宝の箱をあけて、イエス様にふさわしい贈り物、黄金・乳香・没薬などをささげました。あなたも宝をおささげできます？

祈り 天のお父様、非常な喜びにあふれて王なるイエス様に会い、拝み、ささげた博士にならう礼拝をささげます。

12月29日（土）

聖書 マタイ2・12

聖句 夢でヘロデのところに帰るなとのみ告げを受けたので、他の道をとおって自分の国へ帰って行った。 12節

「じゃ、ヘロデ王に知らせにエルサレム経由で帰るか？」「いやいや、神様は、夢でヘロデのところには帰るなと告げてくださった。だから、エルサレムに戻る必要はないよ」そういうわけで、彼らは神様のみ告げに従って、他のちがう道を通って、またまた、長い長い旅路についたのでした。イエス様にお会いしたら、もう今までの古い道は歩まない人になるのです。イエス様と共に、新しい人生に進むのです。

祈り 天のお父様、イエス様をわたしの心に王様としてお迎えします。すべてをご支配していただく新しい人生を感謝します。

年末感謝



聖書	Ｉテサロニケ5・16～18
テーマ	万事感謝
暗唱聖句	すべての事について、感謝しなさい。Ｉテサロニケ5・18
目標	一年の歩みを振り返り、そのすべてを神に感謝する。

12月30日（日）

聖書　Ｉテサロニケ5･16～18

聖句　すべての事について、感謝しなさい。　18節

２０１２年の最後の日曜日となりました！そして明日で、２０１２年も終ってしまいます。「早っ！」と思いますか？この１年のすべてを神様に心から感謝しましょう。「すべてのことについて」ですから、もしかして、「え？あのいやだったことも？」と思い出すことがありますか？「キリスト・イエスにあって」ということは、イエス様を信じているわたしたちには全部感謝できる、感謝にかわっていきますということです。

祈り　天のお父様、イエス様につながっていれば、本当にすべてのことについて感謝できるのでとても素晴らしいです。

12月31日（月）

聖書　詩篇136・1～3

聖句　主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。　1節

ああ、いよいよ、今日で２０１２年も終りです。教会学校、何回行けたかな。「わたし、皆勤よ！」というおともだち、おめでとう！ハレルヤ！今週、つまり、年末年始は、イスラエルの人々が集まるとよく互に声を合わせて言った詩篇１３６篇を見ることにしましょう。２６節全部に、『感謝せよ』とあります！どんなことを感謝したのでしょう。まずは主なる神に感謝！なぜなら主は恵みふかく、いつくしみは永遠だから。

祈り　天のお父様、わたしも１月から１２月までのいろいろなことを思い出し、一つ一つ感謝する時をもつことにします。

1月1日（火）

聖書　詩篇136・4～6

聖句　ただひとり大いなるくすしきみわざをなされる者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。　4節

「オオーッ！神様って、ほんとにすごいことをしてくださるんだなァ」って思うようなことがありましたか？イスラエルの人々の目には、神様はいつも、「ただひとり大いなるくすしきみわざをなされるお方」と写っていたのですね。今日は２０１３年、ハッピー・ニュー・イヤー！どんな年になるのかしら？神様どうぞこの一年も小さいわたしをお導きください。大いなるくすしきみわざをなされるあなたに信頼しますと祈りましょう。

祈り　天のお父様、今年もただひとり大いなるくすしきみわざをなさってくださるあなたがいてくださり感謝します。

1月2日（水）

聖書 詩篇136・7～9

聖句 大いなる光を造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 7節

偉大な天地の創造者なる神様を覚えて、感謝ですね！初めに、「光あれ！」と神様がみ声を出されると「すると光があった」（創世記1・3）とあります。四日目に、神様は昼のためには太陽と、夜のためには月とキラキラ星をたくさん造られました。それらの光は何て私たちに暖かさと輝き、励ましと慰め、そして希望を与えてくれることでしょう！今までも、今も、これからも神様が保っていてくださるから、不思議！

祈り 天のお父様、大いなる光を、太陽月星を造って、今も支えていてくださるあなたに、心からの感謝をささげます。

1月3日（木）

聖書 詩篇136・10～15

聖句 紅海を二つに分けられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 13節

このお話、聞いたことがありますか？もちろん、聖書で読んだことがありますか？イスラエルの人々にとって、超重要なできごとでした。４３０年もの長いエジプトでの奴隷生活から、ついに「脱出」できた時の、神様のスゴーイみわざでした。紅海という海を二つに分けて、イスラエルにかわいた地を行かせたのです！これはわたしたちがイエス様を信じて救われることのひな型です。去年受洗した人おめでとう！

祈り 天のお父様、新しい２０１３年もこんなスゴイ奇跡をしてくださったあなたが共にいてくださるので心強いです。

1月4日（金）

聖書 詩篇136・16～22

聖句 その民を導いて荒野を通らせられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 16節

イスラエルの人たちが荒野を旅したのは４０年でした。長くて、苦しい旅でしたね。その中でいろんなことがあり、リーダーのモーセもアロンもとっても大変でした。水がない、肉がほしい、と不平や不満やつぶやきや反逆の連続でしたよ。でもモーセやアロンのお祈りに神様はこたえて、民を導いてくださったのです。わたしたちの毎日も、「荒野だー！」と思う時があるかもしれませんが、導いてくださる神様に感謝して歩みましょう。

祈り 天のお父様、本当にあなたのいつくしみ、愛と忍耐は大きく、広く、高いものです。どんなに感謝しても足りません。

1月5日（土）

聖書 詩篇136・23～26

聖句 天の神に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 26節

「われらが卑しかった時にわれらをみこころにとめられた者に感謝せよ」（23）とあります。自分中心で、わがままで、罪を犯していた、そんな小さな恥ずかしいわたしたちに、神様がみこころをとめてくださって、選んでくださって、愛して救ってくださったことを心一杯、感謝しましょう。天におられ、いつも一人ひとりを見守っていてくださる、真の神様を知り、信じることができたことは何という感謝でしょう！

祈り 天のお父様、感謝に満たされて、主の新しい年、２０１３年をあなたと共にスタートできてとてもうれしいです。